



あおもり 町連だより

第192号

平成24年7月発行

青森市町会連合会

TEL 017(734)2584

FAX 017(734)2587

**24年度
定時総会**

住み良い地域づくりを推進

会長に加川氏再選、全議案承認

青森市町会連合会は5月25日（金）午後1時からホテルクラウンパレス青森で平成24年度定時総会を開き、241人が出席、各議案を原案通り承認し、任期満了に伴う役員改選で、加川幸男会長（白旗野）を再選しました。

総会は鳴海國男常任理事が司会を務め、佐藤俊雄副会長が開会を宣言。物故者に黙祷をささげた後、加川会長があいさつに立ち「各町会の特性を生かし、市民の自主的な活動と行政の協力によって、安心・安全な、明るく住み良い地域づくりを推進してまいりたい」と、基本方針を述べました。

次いで、長年町会運営に貢献して退任した町会長22人（2面に掲載）、優良町会員143人を表彰、受賞者を代表して對馬一宏氏（東青森駅前）が謝辞を述べました。

引き続き来賓の赤垣敏子市民生活部長（市長代理）、仲谷良子市議会副議長（議長代理）、嘉瀬英紀青森警察署地域官（署長代理）から、町会長の日頃の活動を称え、各町会、市町連の発展を祈念するあいさつがあり、浪岡町内会連合会の野呂一則会長が紹介されました。

この後、風晴文夫氏（浜田青葉台）を議長に選出、議事に入りました。

議案の23年度事業報告、23年度収支決算等について各部長、須藤雄樹事務局長が報告した後、原案通り承認しました。次いで、24年度事業計画、収支予算案について審議に入り、出席した町会長から、①事業計画案が23年度と何も変わっていない。市町連として行政に提言する姿勢が必要でないか②物品斡旋事業特別会計は、今後回覧板斡旋収入だけなので、設ける必要がないと思う。繰越金約500万円の処理を検討してほしい③市の防犯灯を市町連は街路灯としているが、今後もこの用語を使い続けるのか④単独で自主防災組織を立ち上げるのが困難な町会も多い。近隣町会が合同で立ち上げる指導もしてほしいと提言、要望があった後、原案通り承認しました。



町会長241人が出席して開かれた定時総会

この後、任期満了に伴う役員改選で、加川会長を再選し、次の方々を役員に選出しました。

▽副会長＝木村眞一（古館）倉内一長（岡部）須藤喜代行（幸畑阿部野）館田直吉（油川寺町）種市勲（中奥野）

▽常任理事＝今吉一（矢田）鳴海國男（西上古川第二）八戸弘（東片岡）工藤正雄（北後湯）宮川清（北片岡）

▽監事＝土岐鎮雄（西平岡）加藤恒雄（浜田ニュータウン）鶴谷久勝（十三森）

紙面紹介

- 2面 退任町会長と優良町会員を表彰
24年度事業計画
- 3面 女性部会役員研修会
24年度事業計画（2面からの続き）
- 4面 市へ復興支援金寄付
ごみ分別・清掃奉仕10年（江渡上町会）

おめでとうございます

退任町会長と優良町会員を表彰

青森市町会連合会は、表彰規程に基づき24年度総会で町会長を退任した22人と優良町会員143人を表彰しました。(敬称略、カッコ内は町会名、勤続年数)

□20年以上勤続し退任

須藤健夫(みちのく、32) 工藤正路(勝田第一、41)(お詫び:24年度定時総会議案資料で、須藤健夫氏の勤続年数を誤記載しました。深くお詫び申し上げます)

□5年以上20年未満勤続し退任

天内勘一(合浦二丁目、10) 故・工藤繁一(浜館、10) 加賀谷健治(佃第二、10) 對馬一宏(東青森駅前、14) 長内忠義(蛭沢、13) 故・小林肇(相野第一、9) 原田倫方(三和、12) 村上



表彰を受ける退任町会長

昭蔵(浪館第三、8) 八島富夫(稲元第三、6) 上原善四郎(平和台、6) 秋元喜栄四郎(浪館第一、8) 宮川美智雄(宝来町、12) 齊藤正雄(山田町、15) 西田孝一(大別内、9) 北林智典(鍋坂、19) 小田友男(南八ッ橋、16) 伊藤尚文(野木和、8) 笹井康三(松原、16) 今貞一(古川三丁目第一、15) 上田正彦(西奥野、12)

□優良町会員=小形栄美(浜田青葉台) 他142人

町会活動の活性化を図る 24年度事業計画

基本方針

近年、社会情勢の変化により、地域住民間の繋がりが希薄になってきている状況にあります。このような状況から、青森市町会連合会は時代に即応するよう各町会の特性を生かしながら、地域協議会、地区連合町会が活動しやすい環境づくりと活性化を図り、もって市民の自主的な活動と行政との協力による地域交流を広げる活動を行い、明るく住み良い地域づくりをめざした活動を推進します。



計画を説明する部会長

重点目標

- (1) 明るく住みよい街づくりをめざした行政及び関係団体との連絡調整の確立
- (2) 地域協議会、地区連合町会、単位町会との連絡調整の強化と支援の実施
- (3) 安心・安全な地域づくりのための交通安全・

防犯・防災活動の啓発の推進

(4) 地域づくりのための福祉活動の推進

(5) 生活環境づくりのための環境美化及び省エネ活動の推進

総務部会

(1) 会の運営に関する事業の推進

①各部会との連絡調整

②行政及び各機関との連絡調整

③広報「町連だより」の発刊

(2) 地域協議会及び地区連合町会との連絡調整及び地域活動の支援

(3) 各研修会の開催

①市政懇談会

②新任町会長研修会

③理事・部会員研修会

④町会長研修会

地域振興部会

(1) コミュニティ活動の活性化促進

(2) 各種の要望

①各単町会の街路灯の設置及び修繕等を行政への要望活動

②各単町会の道路舗装・側溝整備などの行政への要望活動

③雪処理事業の充実促進を行政への要望活動

④災害に強いまちづくり事業の促進を行政への要望活動

—女性部部会役員研修会— 国柄の違いに誤解も 『韓国の文化』学ぶ

女性部会は1月27日（金）、アピオあおもりで「韓国の文化」をテーマに町会女性役員研修会を開き、青森市の国際交流員、曹鉉珠（チョ・ヒョンジュ）さん＝写真＝を講師に、出席した60人が韓流ブームで広まっているイメージとは別の一般の習慣やマナーなどを学びました。

2009年春から市の国際交流員を務めているチョさんは、はじめに「皆さんは韓国に対してどんなイメージを持っていますか」と問いかけた後、これまで多かった質問として①韓国の食事はみな辛いのか②韓国人は皆ストレートに話すのか③皆やせているのか④皆整形しているのか—を挙げ、①辛いキムチのイメージから料理がみな辛いと思われがちだが決して辛いものばかりでない。料理によくニンニクを使い、ニンニク消費量は日本の10倍になる②人によって違うが、場所、相手をわきまえて話すのは、日本人と変わらない③韓国ドラマの影響でみなスマートに思っているかもしれないが、そんなことはない④韓国の芸能人は整形を隠さない傾向があるし、ウォン安なので韓国で整形する日本人、中国人も多い。それらが

整形する人が多いというイメージを生んでいるのでないか—と話し、日本人の韓国に対するイメージには誤解も多いことを指摘しました。

次いで、韓国の公式名は「大韓民国」、面積は約10万km²（日本の約4分の1）、人口4,800万人（日



本の38%)、首都ソウル（青森市の面積より狭い）に約1千万人が集中、約70%が山間部で人口密度は世界で4番目、信者が多い宗教は仏教（キリスト教と思われがちだが、統計では仏教が多い。儒教は宗教でなく道徳）、朝鮮半島は「虎」の形に似ているとされ、昔から虎が好まれた—と韓国の概要を紹介、また気候、国旗（大極旗。平和、単一、平等、光明、団結を象徴している）、ハングル（韓国語の文字）、伝統的な韓服（ハンボク）のチマ、

チョゴリやキムチの種類（約200種）についてスライドを使いながら説明しました。さらに、日本のマナーと対比させて、女性の座り方、食事のマナー（箸は縦に置く、食器は金属で箸、スプーンで食べる）を解説したほか、オンドル（床暖房）の構造なども説明、国柄の違いを幅広く紹介しました。

交通・防犯部会

- (1) 安心で安全なまちづくり
 - ①交通安全運動の推進
 - ②高齢者と子供を守る運動の推進
- (2) 各機関、団体との連携による事故防止啓発
 - ①交通安全協会事業との連携した活動の推進
 - ②暴力追放運動団体等と連携した活動の推進
 - ③交通安全・防犯のほり旗の掲揚による啓発活動の推進

環境部会

- (1) 快適な環境のもとでの生活と清潔なまちづくりの推進
 - ①ごみの減量化と資源再使用の推進
 - ②クリーン作戦等の実施と地域清掃活動の推進
 - ③花いっぱい運動の推進
- (2) 行政、団体との連携による環境啓発活動の

推進

- ①市等が行う環境啓発事業への参加、協力
- ②廃棄物不法投棄の通報協力

福祉部会

- ①行政が行う住みよいまちづくりへの参加
- ②地域ネットワーク活動推進事業の促進
- ③町会等が行う福祉事業の支援並びに地域づくり事業の推進
- ④災害時要援護者支援運動

女性部会

- ①有価物資源回収事業の推進及び環境美化運動への協力
- ②健康診査の受診勧奨促進及び行政との連携と協力
- ③町内女性役員研修会の開催
- ④町内女性の集いの開催

市に958,897円寄付

市町連 復興支援活動へ

青森市町会連合会は3月22日(木)、東日本大震災で被災した地域への復興支援活動に役立ててもらおうと、青森市へ958,897円を寄付しました。

寄付金の贈呈に当たっては、加川幸男市町連会長と5人の副会長が市長室を訪ねて、鹿内博市長へ目録を手渡しました。

鹿内市長は「被災地の復興活動は息の長いものになりますので、市としても、被災地への職員派遣などできるだけ支援活動を続けて参りたいと考えています。費用もかさむため、皆さん



市長へ目録を手渡す加川会長

の寄付金は本当にありがたく、目に見える形で、使わせていただきます」と感謝の言葉を述べました。

寄付金は、市町連が昨年の総会時に各町会に呼びかけ、単独の町会、地区連合町会を通じて寄せられました。

ごみ分別、清掃奉仕

江渡上町会 平田 登さん 10年間欠かさず

ごみ処理に関し、分別、集積所の衛生管理は町会共通の悩みです。

江渡上町会(齊藤弘町会長)は、ごみステーションボランティア

制度を設けており、現在4人が、資源ごみの収集日に分別指導や清掃など



のボランティア活動をしています。その一人の平田登さん(80) =写真=は、ごみの分別収集が始まった翌年の2002年から活動を続けて10年、この度、模範的な町会員として、市町連から24年度優良町会員の表彰を受けました。

資源ごみの収集日は月4回。平田さんは収集日前日の夕方、集積所に収集箱、網などを設置し、当日午前7時から作業を始めます。分別の指導、集積所利用者の手伝い、収集車の手伝い、収集箱などの片付け、清掃を、10年間ほとんど休まず続けてきました。おかげで、集積所はきれいに保たれ、近所の人たちも大助かり、飲み物を差し入

れるなどして感謝しています。

平田さんは「元気なうちは続けたい」と話し、「忙しいからといって分別をおろそかにしないで」と呼びかけています。

哀 悼 録

佃第三町会長

山内 光雄殿

(平成24年3月28日死去)

前青森市町会連合会会長

佐藤 久雄殿

(平成24年5月29日死去)

長年、奥野第一町会長を務め、平成12年に青森市町連連合会会長に就任、22年まで町会の繁栄、住民の福祉向上に尽力されました。慎んで哀悼の意を表します。



佐藤久雄前市町連会長

編 集 後 記

空き家が増えています。近所にも、豪雪で半倒壊、放置された建物があります。市町連は市に町会の現状を訴え、対策を強く要請してきました。市が検討を開始、本年度中の条例制定を目指していますが、さまざま課題があるにせよ、安全確保のために早く施行されるよう願っています。(千)